

表. 1 チェルノブイリ原発事故と福島原発事故の比較

	チェルノブイリ事故	福島原発事故
原子炉本体の爆発	あり	なし
放出された放射性物質の総量	520万～1400万TBq	45万～90万TBq
ヨウ素131放出量	170万TBq	16万TBq
セシウム137放出量	8.5万TBq	1.5万TBq
急性放射線障害による死亡	50人	0人
放射性ヨウ素の甲状腺被ばく	平均500mSv, 最高5,000mSv	20～82mSv(避難区域内1歳児)
		8～24mSv(避難区域外成人)
国民全体の甲状腺集団線量	296万7千(人・シーベルト)	9万9千(人・シーベルト)
放射性物質の食品規制(初期)	なし	あり
潜在的ヨウ素不足	あり	なし
セシウム被ばく	10-20mSv(低汚染地区)	平均5mSv未満
	50mSv以上(高度汚染地区)	
住民の避難基準	5mSv/年以上	20mSv/年以上
平均寿命の変化	著しい低下(7年)	未定